

## 平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

伸びる学校(教育力) No.1	笑顔のある学校(安心安全) No.1	親しまれる学校(地域交流) No.1
1.「未来につながる確かな学力」	(未来につながる確かな学力を育成しさらなる高みの希望進路を実現する)	
2.「安心・安全の学び舎」づくり	(他者と尊重しあう人権意識を醸成し多くの仲間がいる安心・安全の学校をつくる)	
3.「西高コミュニティー」の充実と発展	(地域と共に育つ西高生、地域交流 NO1 を誇る堺西高)	

## 2 中期的目標

## 1. 未来につながる確かな学力を育成しさらなる高みの希望進路を実現する

- (1) 多様な希望進路実現(理型(理系、看護医療系)、文型、体育・芸術表現創造コース)に向けて教職員が一体となり取り組む。
- ア. 主体的・協働的で深い学びに向けてアクティブラーニングを取り入れた授業を広める。(PC・プロジェクター等 I C T を活用した授業の推進)
- イ. 進学講習(放課後、長期休暇、勉強合宿)および基礎学力重視の補習をさらに強化する。
- ウ. 1・2年でベネッセ実力診断テスト・実力判断テストを導入しデータに基づく学力診断と的確な進路指導を実施する。
- エ. 「学習サポート委員会」で生徒目線の学力向上と進路実現を推進する(専門学校からの出前授業による公務員試験講座、卒業生による進学講習スタディサプリの効果的支援等)
- オ. 少人数展開授業を推進し一人ひとりの生徒の習熟度に応じた内容の濃い授業に挑戦する。
- カ. コース別の外部講師による講演会を実施し動機づけを行い希望進路の実現をサポートする。
- キ. 「アートスタジアム」をさらに充実させ堺西高全体での取り組みとして発展させる。(芸術コース・文化クラブの生徒たちが人前で発表する事で表現力を養いさらなる励みとする)。
- ※国公立・難関私立大学合格者 10 名以上、センター試験受験者 20 名、第 1 志望校合格者 80%以上、就職率 100%をめざす
- (2) 弛まぬ授業改善により興味・関心が湧く魅力ある授業をめざす
- ア. ①主体的・協働的で深い学びにつながるアクティブラーニングにより生徒が調べ・教えあい・考え・導き出す授業を実践する。
- ②伝わる授業=ユニバーサルデザインを取り入れた授業により理解度を向上させる。
- イ. 年 2 回の公開授業を実施し、全員参加の研究授業を充実させ教科を超えて授業見学を行う。(相互授業見学:年 2 回 各自最低 2 回)。
- ウ. 英語に親しみ楽しむ観点を取り入れた英語 4 技能を高める授業に取り組む。併せて英検受験を奨励し英語の技能を向上させる。
- エ. I C T を活用した授業をさらに推進し生徒の授業に対する肯定的評価を高める(アクティブラーニング型授業の推進・I C T 活用授業の実践)。
- オ. 授業アンケートをさらに活用して授業の改善点を確認し積極的に授業力を向上する(授業アンケートの全教員平均評定の向上 3.2 以上をめざす)。
- ※授業アンケートの教員平均評定の向上 3.2 以上をめざす(H27:3.12→H28:3.14)。
- ※学校教育自己診断アンケート(生徒用)「教え方を工夫した授業」の肯定的評価 60%以上をめざす(H27:41.8%→H28:51.0%)。

## 2. 生徒が安心して学べる安心・安全の学び舎づくり

- (1) 課題を抱える生徒・要配慮生徒を組織的に支援する
- ア. 教育相談委員会と学年団が連携し、担任が適切に課題のある生徒に対応できるよう情報を共有し学校全体で最善の支援を行う。
- イ. S C (スクールカウンセラー)と連携を密にして、不登校気味や抑うつ傾向にある、こころに課題を抱える生徒・保護者の良き相談者、アドバイザー機能を高める。不登校の未然防止、ドロップアウトの防止につなげる。
- ウ. 教職員がアンテナを高く掲げ「いじめ・体罰」に関する感性を高める。万一、生徒から訴えがあった場合、或いは認識した場合は、すぐに管理職に報告し速やかに組織対応を行う。
- エ. 教育相談室を充実し相談者やその他課題のある生徒にとって安らぎの場を提供する。
- ※引き続き、いじめ体罰「0」の学校を維持・発展させる。
- (2) 仲間づくりを支援する
- ア. 学校行事をさらに活性化することで仲間意識・協調性の向上を図り高校生活に充実感を持たせる。
- イ. クラブ活動の入部率を向上し帰属意識を向上させる。
- ※学校教育自己診断アンケート(生徒用)の「学校行事に積極的に関わっている」肯定的な意見 70%をめざす(H28:69.7%)
- ※3年生引退前の部活動入部率 70%をめざす(H28:65%)
- (3) 人権意識の醸成
- 国籍、性、障がい、年齢、地域等による差別意識を排除し、何気ない言動で他者を傷つけることを学び、自他共に人権を配慮できる生徒を育成する。
- さらに生徒対象および教職員対象の人権講演会をそれぞれ行い、人権意識の高揚を図る。

## 3. 地域と共に育ち活躍する「西高コミュニティーの充実」

- (1) 開かれたクラブ活動、学校行事で一層の地域交流を行う
- 中学生を招いた大会である「西高カップ」を継続し地元中学校との連携を深める。さらに支援学校との授業交流を継続する。
- ※西高カップ参加者 1,500 名に挑戦する。
- (2) 地域貢献活動やボランティア活動を推進する
- 西高はきれいで、生徒は気持ちよく挨拶をしてくれると言ってもらえるよう「美化運動」や「あいさつ運動」を実施する。また、クラブ活動や生徒会による地域行事やボランティアを奨励する。
- また、地域の一員として通学時の交通ルール順守はもちろん、西高生のプライドを自覚させる服装、遅刻減少を指導する。
- (3) 西高の取り組みを H P、学校説明会、中学校訪問、部活交流等を通じて広報し広く西高の魅力を地域に伝える。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学校生活全般】</b> 「学校が楽しい(生徒)」の肯定的評価が 80.3%と全質問項目の中で、最も高い数値であった。「学校が楽しいと言っている(保護者)」も肯定的評価が 75.9%と全質問項目の中で最も高い数値であった。このことから総合的に見ると、生徒、保護者ともに、一定の満足感を感じ取っていることが伺える。また、「学校の教育方針に共感できる(保護者)」についても 70.2%と昨年より微減したものの、保護者の期待には概ね答えることができたと言える。</p> <p><b>【学習指導等】</b> 「わかりやすい授業が多い」の評価について、肯定的評価と否定的評価がほぼ 50%ずつになっているが、「予習・復習が不十分」が 62.4%、「自宅学習時間が 30 分以下」が 61.0%、「質問に行く」が 23.3%となっており、生徒の学習に対する事前準備に課題があると考えられる。自宅学習時間についても、学年があがるごとに学習時間数は増加しているものの、「0 時間」の生徒もいる。予習をせずに授業をうけるとその効果は 3 分の 1 にも満たないし、定期考査前であわてることになる。 将来設計を考えさせる進路行事や LHR などモチベーションアップを図っているが、それだけでは不十分である。興味関心を抱かせる授業展開の工夫や進路実現をサポートする講習・補修体制を強化する等、更なる多面的なアプローチが必要である。</p> <p><b>【生活指導等】</b> 生活指導において、保護者および生徒の肯定的評価はそれぞれ 71.9%、45.0%と乖離しているのは、生徒にとっては厳しい指導と映っていると推察するが、保護者にとっては厳しい指導に対する期待感の表れと言える。しかしながら、生徒は厳しいと感じながらも「校則や学校のマナーを守っている」が 79.4%と昨年度とほぼ同じ高水準で推移している点は評価したい。今後、生徒との信頼関係をさらに高レベルで構築し、学校の指導の真意をしっかりと生徒に伝え、納得させる指導が肝要である。 自由記述欄を見ると、生活指導のあり方に否定的な意見をもっている一部の保護者もいる。多様な価値観の幅の範囲ではあるが、自主性と規律のバランスをどう捉えるかの部分である。学校としてのスタンスを伝えきれていないことから生じている。地道に丁寧に説明をしていきたい。</p> <p><b>【自由記述欄から】</b> 「トイレが古い、きたない」といった指摘が多かったが、3 月に改修工事が完了し、来年度からはそういった指摘はなくなると思われる。 今年度は、盗難事案が例年より多く生じ、その対応策として、防犯カメラを設置するとともに、生徒一人ひとりに対して貴重品の管理の徹底を促した。自衛する意識をもっと高め、その気運を持続させることが必要である。</p> <p><b>【学校運営】</b> 教員の自己診断では、「教育活動の特色」「教科での話し合い」「指導方法」「進路指導」「教育相談」の項目での肯定的評価は 80%を超えており、一人ひとりの生徒の将来を見据えた指導がなされていると判断できるが、ベテラン教員の今後の大量退職に伴い、そのノウハウが円滑に経験の浅い教員に継承されるよう、制度設計をすることが課題である。 「いじめ対応」については、教員、生徒、保護者における肯定的評価はそれぞれ 63.5%、37.4%、29.3%であった。「わからない」が、生徒 33%、保護者 50.4%となっていることから、実際にいじめ事案が起きていないことと、何か事案が起きたときの相談窓口の認知度が低いことが数字に表れている。いじめの対応についての周知を徹底していく必要がある。 他に保護者の自己診断で「わからない」の回答が多かったのが、「PTA、後援会活動」32.0%、「保護者や地域の人との交流」30.1%であった。確かに携わっていないと、実際の活動が見えないということもあるが、学校からの情報発信がさらに必要なのではと感じた。学校 WEB 等のツールを使って周知を図っていく。</p>	<p><b>【第 1 回学校協議会(平成 29 年 6 月 26 日)】</b> ○安心・安全の学び舎づくり ・仲間づくりでクラブ活動は大切であるが、クラブに加入できない生徒の居場所についても検討してほしい。 ○コース ・芸術コースは増加し、体育コースは減少している部分については魅力の誤差ではないと思うが、今後もコースの特徴や魅力をどのように発信していくかが大切である。 ○生活指導 ・生活指導上の問題は目に見える部分と目に見えない部分もあり、指導も難しい。遅刻が昨年度よりも減少したのは指導のたまものと言える。生活指導部だけで生徒を指導するのではなく、教員全体で意思統一を図り、組織的に粘り強く指導してほしい。 ○通学経路 ・自転車通学の生徒が 8 割を超える中で、一部に限って右側通行をさせて生徒の安全を確保し、交通渋滞を緩和させている場所がある。そのことで一部苦情があるが、粘り強く生徒の安全確保の観点から理解を求めていくしかない。 ○アクティブ・ラーニング ・限られた時間の中で、進度の問題、指導に費やす教員のエネルギーなど教員の負担は大変なものだが、避けられない。ICT を活用しながらも能動的な学びができるようにし、さらに高い望み、高い志を持たせてほしい。</p> <p><b>【第 2 回学校協議会(平成 29 年 9 月 28 日)】</b> ○アクティブ・ラーニング(以下「AL」) ・堺西高校の生徒は授業への参加姿勢が良いが、条件や前提が揃わないと AL は難しい面があるように思う。基礎的な学力がなければ AL を実践しても、授業への参加意識にも差が出てくる。生徒も事前準備をしっかりしないと成果がでにくいとこともあり、そのあたりの工夫が必要と感じた。 ・学びに積極的に参加させることは必要なことなので、全ての授業において AL が必要とは思わないが、教科の特性など必要に応じて、子ども達のために授業改善に取り組んでいただきたい。子ども達を動かすという点では、上手く仕掛けられていた。 ・活動させる部分では活動させ、聞くところは聞くという切り換えの仕掛けを作るテクニックは磨く必要があるように思われた。また、生徒の状況に応じた授業の進管理、時間管理も重要であるように思う。 ・予算や教員定数といったいろいろな条件を整えないと成果のある AL はできないのではないかと考えている。ただ、生徒が学びに積極的に参加できているのはよいことである。AL に限らず、生徒が積極的に学ぶ雰囲気づくり、その背景となる豊富な知識、技能を磨いてほしい。</p> <p><b>【第 3 回学校協議会(平成 30 年 3 月 26 日)】</b> ○学習時間の分析について ・全体での自宅学習時間は、例年と同様の傾向が見られるが、学年別に見ると男子は学年が上がるにつれて「2h 以上」が増加傾向にあるが、女子については自宅学習に時間をかけない傾向にある。自宅学習の重要性を普段から説いて意識の高揚を図られたい。 ○近隣住民への周知について ・現役で難関大学合格者が増加した情報を学校 WEB、玄関横の掲示板などを活用してタイムリーな情報を適切なタイミングで周知されたい。 ○いじめ問題 ・あらゆる教育活動を通じて、いじめや暴力を否定する気風を醸成するとともに、生徒一人ひとりに生命の大切さや善悪の判断など人間としての社会生活のルールや基本的な生活習慣を身につけさせるよう、生活指導体制の確立を図っているが、いじめ問題に対する取組み体制について、教員、生徒、保護者の認識度合いに差が生じている。PTA 対象の人権研修を行うなど、学校の取組みについての理解が促されるよう広報活動をされたい。 ○盗難 ・防犯カメラを設置するなど、盗難事案が減少しているが、全ての生徒が「自分の持ち物は自分で管理する」という意識をもたせ、貴重品袋に貴重品を入れる指導を徹底してほしい。 ○居場所づくり ・生徒の気質が多様化し、家庭や校内で居場所がない生徒が増えつつあるのではないかと。他校の取組みでもみられるように、「居場所カフェ」などのシステムの導入を検討してはどうか。 ○自転車マナー ・学校周辺の緑道で散歩する地域住民の高齢化が進み、自転車を回避する際に転倒する事案が生起している。在校生をはじめとして、4 月に入学してくる生徒に自転車マナーの順守について徹底してもらいたい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 未来につながる確かな学力の育成と多様な進路の実現	<p>(1) 多様な進路実現に向けて教職員が一体となって取り組む</p> <p>(2) 弛まぬ授業改善により興味関心が湧く魅力ある授業をめざす</p> <p>(3) 英語に親しみ楽しむ観点を取り入れた4技能を高める授業の実践</p> <p>(4) 第1志望進路の実現</p> <p>(5) 違いを認め合う人権意識を養成する</p>	<p>ア) 学力生活実態調査を全校的に導入し、外部データによる学力判断進路指導を行う。</p> <p>イ) 保護者に対するさらなる進路情報の提供を活性化し学校・家庭が一体となった進路指導を推進する。</p> <p>ウ) 進学講習の受験サポート体制を見直しさらに充実させる。</p> <p>ア) 学校教育自己診断、その他のアンケート等から授業に関ニーズを把握しアクティブラーニング・ICTを活用した授業を広く推進する。</p> <p>ア) 英語4技能を伸ばす英語の授業に加えて英語を好きにさせる魅力ある授業を進める。</p> <p>イ) 英検を奨励し資格取得を奨励し段階的に上位の級に挑戦させる。</p> <p>ア) 第1志望の進路実現に向け学校をあげて支援を行う。</p> <p>ア) 生徒向け人権講演会等で生徒自身の人権意識を向上し共に学び・共に育つ心を磨く。</p>	<p>・学校教育自己診断アンケート(生徒用) 自学自習時間の増加を図る 2h以上 構成比10%以上 (H28, 9.8%) 1h~2h // 10%以上 (H28, 8.6%)</p> <p>・学校教育自己診断アンケート(保護者用) 「将来に向けた進路・職業に適切な指導が行われている」の肯定的評価70%をめざす (H28, 69.9% H27, 66%)</p> <p>・授業アンケートの全教員平均評定3.2以上 (H28, 3.14/ H27, 3.12)</p> <p>・学校教育自己診断アンケート(生徒用) 「工夫された授業」の肯定的評価を60%以上</p> <p>・教員相互の授業見学年2回以上</p> <p>・英検2級・準2級合格者20名以上をめざす (H28:19名)</p> <p>・センター受験20名以上</p> <p>第1志望校合格80%以上、就職率100%の確保</p> <p>・身近な差別を考える取り組みの実施、人権講演会肯定率80%以上</p>	<p>(1) ・自学自習時間2h以上が9.4%、1h~2hが9.6%と目標には届かなかったが昨年度合計実績では微増した。(○)</p> <p>・「一適切な指導が行われている」が64.8%と減少、指導への取組をチェックして改善の工夫を行う。(△)</p> <p>(2) ・授業アンケートの平均評定1回目3.08 2回目3.13に上昇したが、目標値には届かなかった。(△)</p> <p>・「工夫された授業」についてH28年度51%から51.8%と微増したが目標を下回った。(△)</p> <p>・教員相互の授業見学2回実施(○)</p> <p>(3) ・英検2級、準2級それぞれ1名、19名合格(◎)</p> <p>ワープロ検定初段1名、情報処理技能検定2級4名合格、漢字検定2級9名</p> <p>(4) ・センター受験者29名(◎)</p> <p>・第1志望校合格75%(◎)</p> <p>・学校斡旋就職内定率100%(◎)</p> <p>・龍谷大学合格7名(昨年度1名)(◎)</p> <p>(5) 人権講演会肯定率80%(○)</p>
2 生徒が安心して学べる安心安全の学び舎づくり	<p>(1) 課題を抱える生徒・要配慮生徒を組織的に支援する</p> <p>(2) 仲間づくりを支援する</p> <p>(3) SNSによる「いじめや問題行動」を撲滅する</p>	<p>ア) 教育相談委員会と学年団が連携し、担任が適切に課題のある生徒に対応できるよう情報を共有し学校全体で最善の支援を行う。</p> <p>ア) 教育相談室の更なる充実と整備</p> <p>ア) 学校行事クラブ活動のさらなる活性化</p>	<p>・学校教育自己診断アンケート(生徒用) 「学校が楽しい」の肯定的評価を80%以上の維持 (H28:81.3%)</p> <p>「保健室や相談室等で気軽に相談できる先生がいる」の肯定的評価45%以上をめざす (H28:41.3%)</p> <p>・教育相談室の整備充実を行い安心できる居場所づくりを行う</p> <p>・学校教育自己診断アンケート(生徒用) 学校行事に積極的に関わっている」の肯定的評価70%をめざす (H28:69.7%)</p> <p>・部活動入部率65%を維持し70%をめざす</p> <p>・SNSの正しい使用を徹底しSNSで加害者・被害者「0」の維持</p>	<p>(1) ・80.3%で目標は達成。昨年より1%低下したが、「よくあてはまる」が42.9%から46.2%に上昇しているため数値以上の評価ができる。(○)</p> <p>・「相談できる先生がいる」は36.9%と下回った。相談者数と相談頻度の増加が考えられる。(△)</p> <p>(2) ・「学校行事に積極的に関わっている」が69.5%でほぼ現状維持(○)</p> <p>・「部活動がさかんである」が77.5%が示すように、部活動入部率については68%を維持することができた。(◎)</p> <p>(3) ・学年集会で再三の注意喚起を行い、SNSが絡むトラブルは水際で阻止した。(○)</p>
3 地域と共に育つ西高生 「西高」コミュニティの充実	<p>(1) 開かれたクラブ活動・学校行事で一層の地域交流を図る</p> <p>(2) 地域貢献ボランティア活動を推進する</p> <p>(3) 異校種連携の一層の充実と発展を行う</p> <p>(4) 西高生徒の地域における評判を高める</p>	<p>ア) クラブ活動「西高カップ」の開催や文化部の地域祭りや施設の訪問発表を行う</p> <p>ア) 西高はきれいであり気持ちの良い挨拶ができている、と言ってもらえるよう、校内や地域での「美化運動」や「あいさつ運動」を展開する</p> <p>ア) 福泉南中学校、福泉中央小学校、桃山台小学校との連携、泉北高等支援学校との交流を行い学校相互の理解を深め小中高が一体となって生徒の成長を見守る。加えて、プール学院大学桃山学院大学との高大連携のさらなる活性化を図る</p> <p>ア) 生活指導を通じてルール順守の必要性を教え卒業後も信頼される西高生を育てる。</p>	<p>・「西高カップ」の参加中学生累計1,500人以上を維持する</p> <p>・地域交流事業年間20回以上</p> <p>・あいさつ運動を計画的に実施し年間5回以上の清掃活動を行う。</p> <p>・近隣小中学校において、出前授業(水泳指導、AED講習など)を2回以上実施</p> <p>・校則・規律遵守を指導し遅刻累計2,000件以下をめざす</p>	<p>(1) ・西高カップサッカー部門、ソフトテニス部門、女バレ部門でそれぞれ1200名、400名、250名の中学生が参加した(◎)</p> <p>(2) ・軽音楽部、吹奏楽部、ダンス部、放送部が5町の地域の祭りに参加する等、年間20回地域住民と交流をした。(◎)</p> <p>・あいさつ運動、清掃活動を計35回実施(◎)</p> <p>(3) ・教員を派遣して福泉中央小で水泳指導を、桃山台小学校、福泉中央小でAED講習を行った。(○)</p> <p>・泉北高等支援学校の生徒と7月1月に計2回交流会を行い、障がいのある生徒との向き合い方を学んだ(◎)</p> <p>(4) ・遅刻累計は昨年より650件減少したものの2410件であった。(△)</p>

